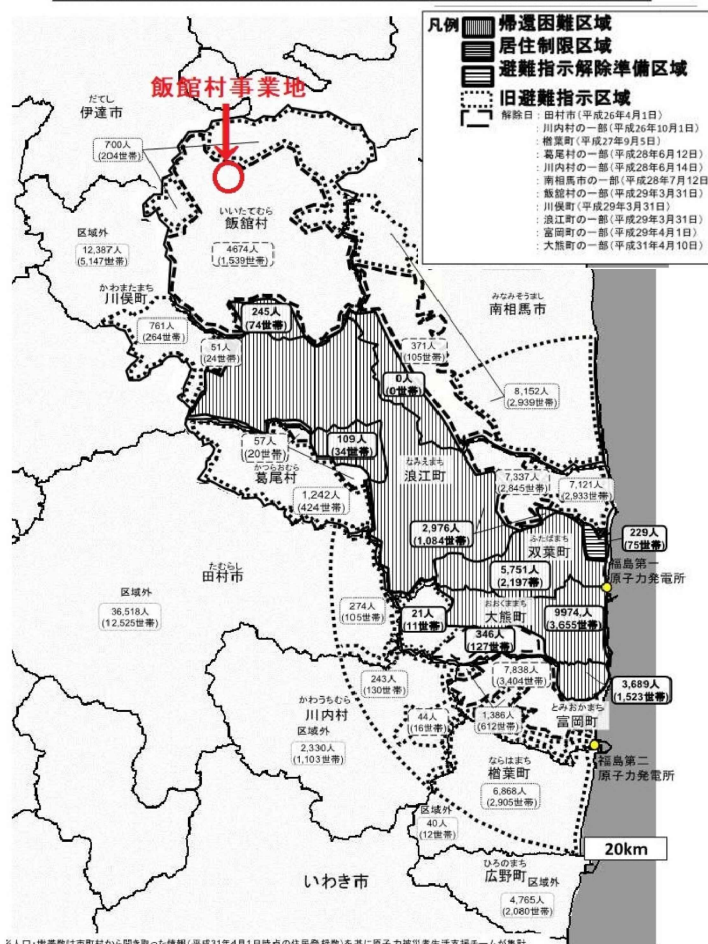


避難指示区域の概念図(平成31年4月10日時点)



飯館事業地位置図

(経済産業省HP 避難指示区域概念図を使用)



飯館事業地周辺の衛星写真(Google Earth)

「福島」の森林・林業の復興・創生に向けて
実証事業「飯館村事業地」
森林整備課

東京電力福島第一原子力発電所事故から8年が経過し、福島県では避難指示が解除された区域が広がってきています。

避難指示解除後の地域における森林・林業の再生に向け、関東森林管理局では、放射性物質の流出・拡散防止対策、作業者の被ばく低減対策等の具体的な手法や効果の検証、事業実

施に必要な歩掛かりの把握等を目的とする実証事業に取り組んでいます。

平成30年度は、4市町村(南相馬市、楢葉町、飯館村、田村市)内の国有林において実証事業を実施しましたが、その中で、特に一般の方々に身近な位置にある飯館村の事業地について紹介します。

【飯館村事業地の立地について】

この事業地は、飯館村深谷地区の「村民の森あいの沢」の近隣に位置しています。「村民の森あいの沢」は、ため池を中心としたキャンプ場や宿泊体験館、テニスコート等があり、震災前には人々の憩いの場として大いに賑わっていました。原発事故後、避難指示の区域となり、平成29年3月31日に避難指示が解除されましたが、現在はまだ宿泊体験館のみ利用可能となっています。

【景観への配慮を目的とした間伐】

本実証事業においては、安らぎを求めて、この地域を訪れる人々に安心して過ごしていただけるよう、景観への配慮を目的とした間伐と空間線量率の低減を目的とした被覆工等を主たる事業として実施しました。

「ふれあいロード」の通行者から林内が見渡せるようにしました。また、林内の樹勢や成長の良くない木を中心に、全体の立木配置状況を加味しながら間伐をする木を選木することにより、写真のとおり、景観に配慮し整理とした明るい林分に仕上げました。

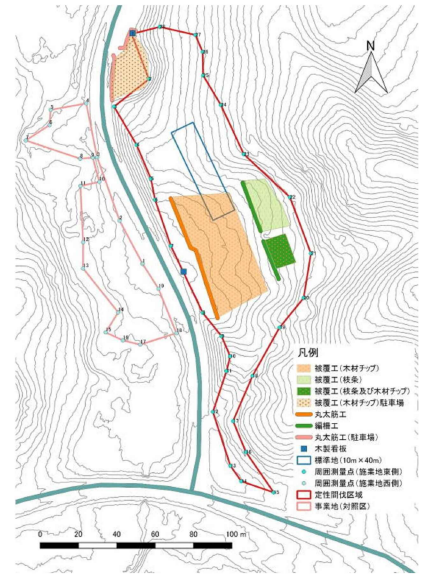
また、事業対象面積が小規模(0.77ha)であったことから、比較的面積規模の大きな間伐作業で使用するク拉斯の高性能林業機械は使用せず、小型重機を使用しましたが、人力作業のみの場合と比較して、作業従事者の外部被ばく線量を約30%低減することができました。



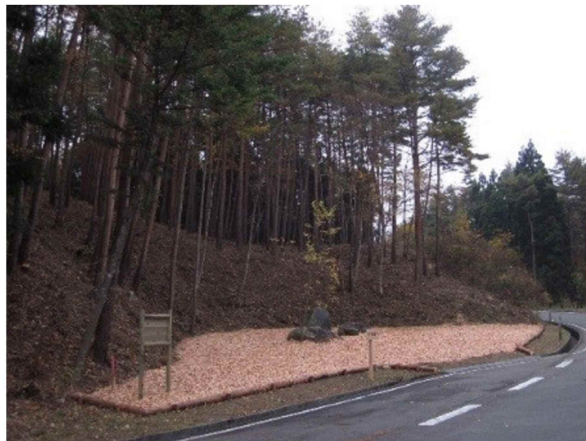
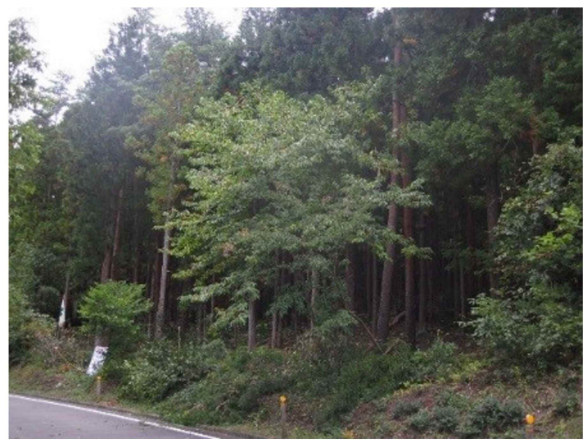
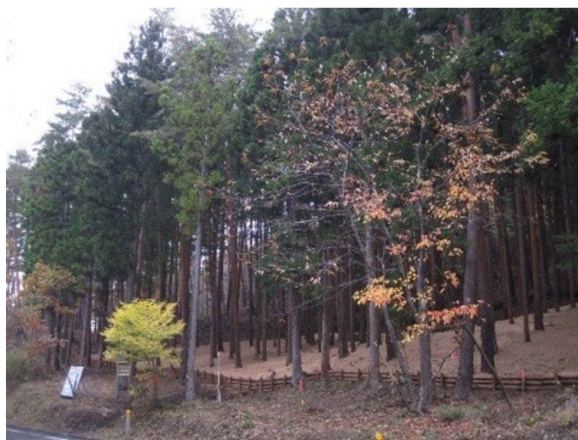
移動式チッパー



小型グラブブル



事業実施内容一覧図



【被覆工等による空間線量率の低減等】

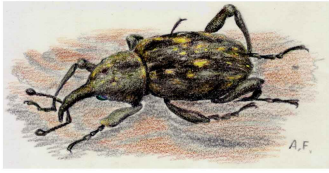
林内からの土砂等の流出抑制、雨滴等による浸食防止、土壌中の放射性物質からの放射線を遮蔽することによる空間線量率の低減を目的として、木材チップのみのもの、枝条のみのもの、木材チップと枝条を組合せたものを、それぞれ林内に敷きました。

なお、これらの木材チップ及び枝条は、間伐により発生した丸太等から作製・選別したものを使用しています。

これらにより、木材チップのみの区域で約12%、枝条のみの区域で約8%、木材チップと枝条を組み合わせた区域で約18%と、それぞれ空間線量率が減少しました。

また、間伐実施箇所からの土砂等の流出防止を目的として、道路側林縁付近に丸太筋工を、木材チップ等の被覆材の流出防止及び斜面を流れる雨水を分散させることによる林床土砂等の流出防止を目的として、山側林縁付近に編柵工を、それぞれ施工しました。

なお、丸太筋工、編柵工とも、資材は間伐により発生した丸太等を利用しています。



オオゾウムシ(大象虫)
約2cm. ゾウの鼻のよう長い口吻を持つ。
針と刺の長い程硬丈だが驚くと死んぞつをする。



事業説明用看板

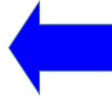
福島は今、復興・創生の新たなステージを迎えています。
関東森林管理局も、今回紹介した本実証事業をはじめ、様々な取組を通じて福島の森林・林業の再生に資するよう邁進して参りますので、御理解・御支援のほど、よろしくお願ひします。



丸太筋工施工後



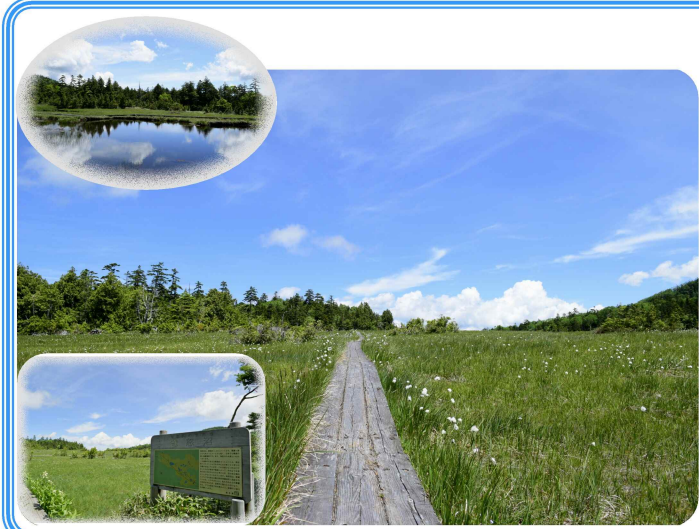
丸太筋工施工中



編柵工施工後



編柵工施工中



今月の表紙

「鬼怒沼」

(栃木県日光市)

標高約2000mにある高層湿原群。
初夏には、ワタスゲやタテヤマリンドウ、ミズバショウ等、高山・湿原特有の多くの植物種を見ることが出来ます。
初夏の現地は、爽やかな風が吹き、瑞々しい緑・青く澄んだ空美しい湿原といった「天空の楽園」という表現がぴったりな場所です。秋には草紅葉を楽しむことができます。
自然散策を楽しむことができる場所である一方、保護林や国立公園の特別保護地区に指定され、自然保護上重要な場所でもあります。